

【 風景に潜む関係性 】 117号恵庭岳公園線から「えこりん村」へ入る道の両脇や、「森のレストラン Ten-Man」の内部、「らくだ軒」の入口、放牧地の中など…様々な配置された巨大な「日高石(通称)」。

北海道を語る上で重要なアイヌの方々との交流から、平取産を選んだ経緯があります。「石・岩」という鉱物が自然界で担う科学的役割も尊いものですが、夏の暑い日にひんやりする岩に集まるヒツジたちも恩恵を得ているかもしれません。

【 えこりん村 農業の目指すもの 】

本施設では、庭園の管理も含め循環型の農業生産を目指しています。有機JAS認証を得ている牧草地もあり、その他のエリアでも、以下の努力をしています。

- ・化学合成肥料 不使用（栽培期間中）
- ・化学合成農薬（除草剤含む）不使用（栽培期間中）
- ・有機JAS規格別表等への適合性評価済み資材を使用
- ・場内から出る家畜のふん尿や植物残などを分解・発酵処理して利用
- ・廃棄物の分別と適正処理

これらの理想がなければ、もっと容易な園内管理が可能かもしれませんが、子供連れなどの多様なお客様に安心してご来園頂けるよう、頑なにこだわっているところです。

【 えこりん村 沿革 】

- 2000 年 恵庭エコプロジェクト 発足
～ 2005 年 120haの農地を取得(後拡大)。土壌分析を行い、循環型農業生産の実践を開始。生ごみの堆肥化やバイオガスプラント、生物多様性の活動など始動。草地農業による羊飼育勉強会発足（～2016年終了）
- 2006 年 えこりん村 開業（ガーデンセンター花の牧場、天満食堂、らくだ軒、銀河庭園、ふゆみずたんぼ、とまとの森、キッチンガーデン 開始）
ニュージーランドからヒツジ（ボールドーセット種）の導入
なたね総合学習 開始（恵庭市立島松小学校、後年拡大、2017年終了）
- 2007 年 屋外環境学習エリア 石の花農場 開設（現在閉場）
えこりん村の子どもたち 開始、恵庭市内 家庭の廃食用油回収 開始
- 2008 年 ロズビィのバラ畑（銀河庭園内）オープン、ニュージーランドアルパカ4頭導入
- 2009 年 とまとの森 韓国「2009蔚珍(ウルジン)世界親環境農業EXPO」に再現展示
- 2010 年 ● いきものにぎわい企業活動コンテスト 農林水産大臣賞 受賞
（北海道ふゆみずたんぼプロジェクト）
- 2011 年 ■ 牧草地の有機飼料の日本農林(有機JAS)規格 認証取得
「みどりの牧場ショー」「ファームツアー(旧コース)」開始、放牧豚勉強会 発足
- 2012 年 「みどりの牧場ショー」を統合し「銀河庭園&みどりの牧場」
- 2013 年 ● 生物多様性アクション大賞2013 GreenTV賞 受賞（ふゆみずタンゴ）
■ 環境省ESDモデルプログラムに採用（なたねプロジェクト 見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル）
● “The World largest tomato plant”として世界記録に認定（とまとの森）
- 2014 年 ■ 環境省北海道地方環境事務所発行 北海道版ESD環境教育モデルプログラム掲載（なたねプロジェクト 見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル）
世界の大昆虫展 開催、バイオガスプラント運転 再開
書籍：マダムロズビィの庭 ロズビィのバラ畑とイギリス職人がつくった銀河庭園
- 2015 年 とまとの森 小学5年生の教科書(教育出版 未来をひらく小学理科5)に掲載
えこりん村のひみつ展 設置、えにわ環境・エネルギー展 園内開催
- 2016 年 えこりん村学校 開始(えこりん村の子どもたち リニューアル)
ヒツジ最大飼育頭数 1000頭 達成
- 2017 年 ★ ニュージーランド ビル・イングリッシュ首相ほか政府・民間企業関係者ら約40人の訪問団と北海道高橋知事が来園
- 2018 年 ★ 中華人民共和国 李克強首相、安倍首相 来園 森のレストランTen-Manで昼食
北海道胆振東部地震、大規模停電 発生
● 生物多様性アクション大賞2018 つたえよう部門 入賞
（外来種セイヨウオオマルハナバチ駆除活動）
★ ミス・インターナショナル 北海道震災復興支援 来園
とまとの森 2万個 初達成、お米の総合学習 開始（恵庭市立島松小学校）
● 第1回未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞 企業部門 受賞
（国内外来種トノサマガエルを捕まえる！活動）
- 2019 年 ● 第6回生物多様性日本アワード 優秀賞 受賞
（ふゆみずたんぼ 含む 持続可能なお米の仕入れ活動）
- 2020 年 ■ 環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室 発行「生物多様性民間参画事例集」掲載（ふゆみずたんぼ 含む 持続可能なお米の仕入れ活動）
■ 国際自然保護連盟 日本委員会 発行「にじゅうまるプロジェクト10年の振り返りと日本から世界に発信する新しい協働」掲載
（ふゆみずたんぼ 含む 持続可能なお米の仕入れ活動）

編集者より：この度はお手にとって頂き、ありがとうございます。札幌市の派遣研究員として英国のエコビレッジや環境教育センターを研究した後の 2003 年より、こちらに加わり変遷を見つめてきました。世界には、多様な「循環型」や「共生型」の事例が存在し、同じ設備や仕組みを導入すれば「できそう」に思えます。でも、人や環境が違えば同じ条件は整わず、異なる法律や製品規格のもと困難に直面した現実が多々ありました。農業・環境・文化、それぞれに用意されたゴールはなく、「正解」が明確なものでもありません。各々の関係者が、一つずつ挑戦と失敗、解決により築いてきたのが現在の「えこりん村」です。今回、古参スタッフとして、冊子の執筆・編集をさせて頂けたことに感謝し、今後も「持続可能性」の具現化に向け貢献・発展できることを願って、第一号を発行させていただきます。（高田）



事業プロフィール

Eco-rin Village in Eniwa by Aleph.Inc

「環境負荷を軽減し、持続可能な社会の形成に貢献したい」

この想い<えこ>を実現するために、動植物をはじめとする自然環境とのつながり<輪=りん>を大切にしながら展開する小さなコミュニティー<村>。それが「えこりん村」です。

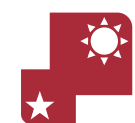


Issued Sep（9月）.2020.発行



Makiba, Eniwa city, Hokkaido, Japan 0123-34-7800 URL <http://www.ecorinvillage.com>

ハンバーグレストランびっくりドンキーと つながる

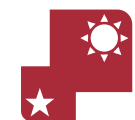


はじまりは、ひとつのレストランでした。
「食」という字は「人」を「良」くすると書く。

食

人を良くする食を求め、
食から農業へ、
農業から環境へ。
私たちの取り組みは
広がっています。

えこりん村を運営する株式会社アレフは、1968年、前身のレストラン「ハンバーガーとサラダの店・べる」を岩手県盛岡市に創業してから、ハンバーグレストラン「びっくりドンキー」をはじめ、全国に300店舗以上の飲食店などを展開する外食を中心とした企業です。
レストランで提供する「食」を「安全・安心で健康な食」にしたいと食材の研究を始めたところから活動が広がりました。



農業・環境へ 視点が広がった経緯 えこりん村とのつながり

食の提供から、食の生産現場である「農業」、その生産現場を取り巻く「環境」にまでさかのぼって研究・実践するようになり、そのフィールドの一つとして2006年6月に「えこりん村」は開業しました。
今では来場者に楽しんで頂く観光牧場としてのエリアや農業を楽しむイベントなどを多く開催するようになりましたが、放牧している羊たちを代表に、当初の目的に沿った農業と環境に真摯に向き合い、実践する現場でもあるのです。

ハンバーグレストラン
びっくりドンキー®



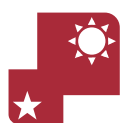
おいしさはもちろん、
人にやさしいこと。
自然にやさしいこと。
生産者の方々の
努力と工夫、そして熱意
に支えられています。

びっくりドンキーの取り組み

例えば、お米は、日本各地の契約生産者の方々が農業の使用を極力省いて育てた「省農薬米」を使用しています。また、ビーフは、牛本来の姿を求め、放牧と牧草による飼育を主体とし、成長ホルモン剤は使用しません。他にも、木のお皿のリユースや生ごみのリサイクルにも取り組んでいます。

本誌の位置づけ…Introduction（導入）

お買い物や観光などを楽しんで頂く際には、あまりお伝えしてこなかった「ハンバーグレストラン びっくりドンキー」とのつながりや、社会の不足や不満と向き合い、一つずつ取り組んできた「えこりん村」における活動の概要を記載しています。さらに詳しい情報は各分野の担当から、必要な折々で発信していきます。



そして、ふたつのえこりん村の顔 農業の実践と環境負荷を下げること&楽しく知って頂くこと



観光・体験エリア

これまで私たちは安全な食を提供し、食を通じて地域や文化が豊かになること、食を育む人と、食べる人が、共に幸せになることを目指してきました。そのために、さまざまな角度から取り組んできた活動があります。

活動に触れ、時には持ち帰って頂く場として、合計約40haある2ヶ所の観光・体験エリアには、銀河庭園やみどりの牧場、ウェルカムセンター、とまとの森などが含まれます。
昔から人々を魅了してきた夜空に輝く星を眺めるように、滞在を楽しんで頂けますように。



生産・循環エリア

全体で約150haある内のおよそ110haは生産や環境負荷低減活動を行う非公開エリアです。
なぜなら風景として見える「放牧地」も立派な牧草とヒツジの農業生産の場だから。畜産を営むエリアで家畜伝染病や人畜共通感染症を発生させるわけにはいかないため、触れたり入ったりする場所は限定されています。
説明される機会がないと知ることが難しいのですが、レストランから出る生ごみを有機肥料へリサイクルしたり、二酸化炭素の排出を抑える技術開発など環境への負荷を軽減させるエコな取り組みも各所に備わっています。

自然への入口 — 時間と空間を通して知る

贅沢な時間と製品がもたらす癒やし 銀河庭園 & 食べられるバラ	… 3
お米づくりと生きものの共生 ふゆみずたんぼ	… 5
農業や自然にふれあい、発見する えこりん村学校	… 6
人の役に立ってきた動物たち みどりの牧場（まきば）	… 7

人と自然の間 — ^{はざま}「農業」「畜産」を営む

北海道で健康的な畜産を考える ヒツジの放牧・牧草生産	… 8
走ったり寝転んだり 放牧豚 こな雪とんとん	… 8

価値を知り選択し、消費することが活動維持へ

場内や連携農場の生産物と北海道の魅力 ウェルカムセンター	… 8
頭上に数多に実るトマトからいのちのちからを感じる とまとの森、キッチンガーデン	… 9
おいしく食べて活動を支える Ten-Man & らくだ軒	… 10
自分の家に自然を取り込む 花のまきば	… 10

持続可能な企業と社会に向けて

生ごみを資材に変えて循環を目指す 生ごみリサイクル	… 11
油をエネルギー資源にして環境負荷を低減 油のリユース・リサイクル	… 12
自然のしくみを賢く活用 地中熱ヒートポンプ、その他	… 11、12
生物多様性、農業、環境に支えられていることを知る グリーンウェイブ、展示・教育旅行	… 13
えこりん村村長一運営への想い 「はじまり」から「つづけること」へ	… 14

Entrance of Nature

自然への入口 草花を慈しみ愛でる豊かさ



銀河庭園

The Galaxy "Ginga" gardens



銀河庭園：“青”をテーマにしたトレリスガーデン

広さ10ヘクタールの敷地に、異なるテーマを持つ数多のガーデンがある銀河庭園は、2006年にオープンしました。高低差を利用したダイナミックなランドスケープと遊び心のあるセンスで、おとぎの国にきたかのような雰囲気です。

植物は時間の経過と共に姿を変えますが、その変化を楽しめるよう植栽や管理計画を設定し、折々の色彩が映える意匠としています。独特の美しい構造物と植物のハーモニーが特徴的です。



プロフェッショナルガーデナー

Professional gardeners



北海道恵庭市の風土にあった植栽と、環境に配慮したイングリッシュガーデンを目指して管理を続けており、地下水の使用や農薬を使用しない栽培を継続・実践しています。植物が健康に育つように土壌改良し、風通しを調整して、病害虫を早期発見し、手による除去を行うなど、継続的なガーデナーの仕事が庭を美しく保ちます。

その結果、庭園内には多くの野鳥や昆虫、動物たちが住み着き、豊かな自然を感じて頂けることも魅力です。

ガーデンでくつろぐお客様の時間や空間を大切にしていきたいと考えています（山口）



ガーデンデザイナー

Garden designers



ガーデンデザイナー：パニー・ギネス氏



スーパーバイザー：吉谷桂子氏

英国のチェルシーフラワー賞で金賞を計6回受賞するなど、世界を舞台に活躍するパニー・ギネス氏が銀河庭園を設計。童話の世界観を持つ庭や受賞作を再現した下記の庭もあります。

「チェルシーツリーハウス」（金賞）
「ポートレースガーデン」（準金賞）
「楽しい川辺」（金賞）
「ドラゴンガーデン」（金賞）

そして、2016年より、国内各地の庭園設計に携わり、TV出演や著書も多数ある吉谷桂子氏にスーパーバイザーを依頼。

花が多く、親しみやすいガーデンを目指して進化を続けられるようご教示頂いています。

入口としてのガーデン：平面幾何学式ではなく、自然風景式の庭づくりが発展した英国出身のデザイナーは、「自然」と「人」について考える「入口」を散りばめています。車のパーツ等で創ったドラゴンと空き缶・空き瓶などの廃品の利用（サルベージ）をした庭や、夏に現れる涼しい川辺への道など、様々な「入口」をぜひ探して下さい。

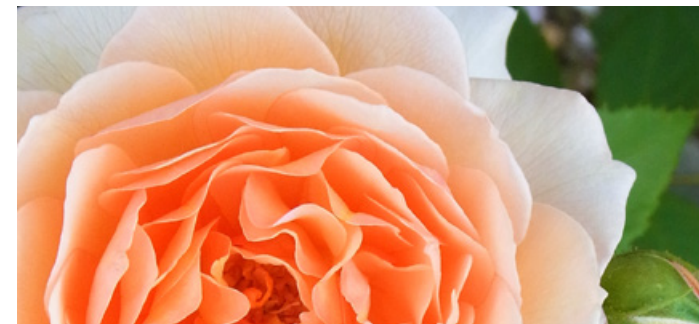


植物が元気に育ち、庭園が心地良い場所であるよう日々植栽管理をしています（前野）



食べられるバラ

Edible roses in the garden



銀河庭園の敷地内には、約4,000株の“食べるためのバラの畑”があります。2008年から徐々に株数・種数を増やし、香りや色、テクスチャー、花びらの付き方などが違う、個性豊かなバラを楽しんで頂いています。

■ バラ祭（6月下旬～7月中旬頃）

バラ畑を中心に開催されます。鮮やかなバラと一緒に撮影できるフォトスポットや、バラを活かしたスイーツなどをお楽しみ頂けます。



バラ畑デザイナー、製品ディレクター：ロズビイトモコ（庄司トモ子）



ロズビイトモコ製品

Natural products of "Rose" be Tomoko

食べるためのバラは、安全性を考え、農業に頼らず、加工した際の色と香りにもこだわり、品種を厳選して栽培しています。手入れは、一鉢ずつ丁寧に行い、早朝に手摘みした新鮮なお花を活かして製品を作ります。

大切に育て、生み出されるジャムやシロップは、ヨーグルトやアイスにかけたり、シャンパンに沈めたり、特別な一日や幸せなティータイムにおすすめです。

■ バラ畑のものがたり

バラ畑には、昔あったお屋敷の名残がそこかしこに見られます。壊れかけの鉢や古いサビたオブジェなどが、何か懐かしさを呼び戻し、再び命を与えられたようです。

体験 農業 生物多様性 学ぶ

いきもののいっぱい
お米づくりと生きものの共生

ふゆみずたんぼ

Fuyumizu tambo (Winter flooded rice paddy)



全国のびっくりドンキーで提供するお米は農薬を除草剤1回だけの使用に抑えた「省農薬米」です。各地の生産者の方々が、いろいろなノウハウを活かしてできている取り組みですが、実際の稲作を知らないままでは、生産者との相談も難しいもの。2006年にこの田んぼを作り、栽培期間以外にも水を入れることで水田の生きものを豊かにする農法である「ふゆみずたんぼ」が、北海道でも可能か検証をしています。代掻き（しろかき）などの農作業を実際に行いながら、①農薬の不使用、②有機肥料の使用や③不耕起など、様々な農業技術を検証し、水田に集まる生きものの調査なども行っています。



■ 受賞歴ならびに登録・連携事業など

第1回 いきものにぎわい企業活動コンテスト農林水産大臣賞（2010）
生物多様性アクション大賞 2013 GreenTV 賞（2013）
UNDB-J 認定連携事業 第4弾認定（2014）
第1回 未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞 企業部門（2018）
第6回 生物多様性日本アワード 優秀賞（2019）
にじゅうまるプロジェクト10年：国内優良事例として掲載（2020）



ふゆみずたんぼまつりは、「グリーンウェイブ」「湿地のグリーンウェイブ」に参加しています。

※ グリーンウェイブの他の活動は13ページに記載。

農業や自然に
ふれあい、発見する

えこりん村学校

Learning through Eco-rin(g) School



村内で行われる様々な行事や作業を体験する場として 2007 年に始まった「えこりん村の子どもたち」は、より多くの子ども達に多様な体験を提供する【えこりん村学校】として 2016 年に生まれ変わりました。村の奥に広がる森でのびのび活動する森コース、間近で命を感じる羊コース、土と触れ合い食べる喜びを感じる野菜コース、田植えから稲刈りまで体験できる米コース、4コース 100 名の子ども達が半年間、地域・学年の垣根を越えて活動します。親子で体験できる土曜コースでは自然や生きもの、手づくりの楽しさを感じられる入口として様々なプログラムをご用意しています。



NPO法人

連携：共育フォーラム

市民の視点で仕組みを創造し、社会教育、学校教育、環境教育などの実践者や、社会貢献活動をする企業、行政担当者が出会い、互いに協力する場を提供している法人です。えこりん村学校の活動も、ご協力頂いています。

<https://tomoni.jimdofree.com>



催事：地域の中で

地域の方が守ってきた文化を子どもたちや道内に残していこうと、道央流鏑馬会、フィールデイズ・イン・ジャパン、えにわ犬ぞり大会、えにわ環境・エネルギー展への協力も継続しています。また、恵庭市観光推進協議会など地域の活動にも積極的に参加しています。





みどりの牧場 (まきば) Animal farm "Midori no Makiba"

※ 荒天や場内の状況が著しく悪い場合は、お客様と動物、スタッフの安全確保のためやむをえず中止することもあります。

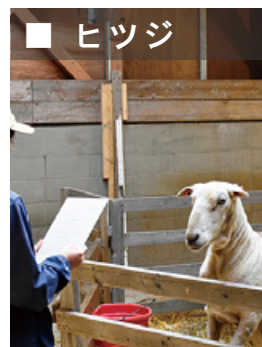


丘陵のある広大な放牧地で、家畜を集める「集牧作業」は、大変な労働です。そこで古くから人間は犬を仕事の相棒としてきました。牧羊の技術とヒツジの動きをご覧ください。



ファームトラクターで園内のコースを巡り、家畜動物のいる風景の中をご案内します。暖かい時期のトラクターには、バイオディーゼル燃料（※ 詳細12ページ）を使っています。

役立つ動物たち



神妙に外向辞令を聞く

毎年春に産まれ、羊毛や肉の生産の他、村内の草刈り業務を担います。村外の施設に外向することもあり、成長が早いのが特徴です。



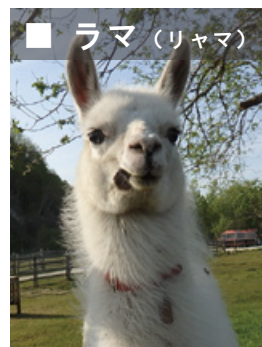
出動に向けた待機も業務

2種類の牧羊犬が、それぞれの“特性”を使い、スタッフと共にヒツジを移動させる様子をショーでお見せします。



毛刈り後のスタイルは独自路線

ラマと近縁で、その柔らかな毛の生産が主業務。柔和な表情だが、臭いの強い唾液を吐き威嚇することがあるため、距離感に注意。



時々駆け回る様子が爽快

南アメリカ原産のラクダの仲間。毛の生産も可能だが荷物運搬に向く。小顔と長いまっげが特徴的。



頑固な業務姿勢も個性

ウマの仲間では英語ではドンキー。強健で記憶力も良く、荷物運搬に活用されることも多い。背中に十字模様があります。

その他、ヤギやジェイコブという珍しいヒツジ、体高80cm程度以下のミニチュアホースなどもあります。

北海道で健康的な畜産を考える



ヒツジの放牧・牧草生産 Sheep and pasture

※ 柵内は、生産エリアです。牧柵には触れないようご協力下さい。



有機認証を得ている牧草地

子羊が生まれる春には約1,000頭を放牧飼育。栄養価が高い草種を育て、摂取に適した草丈の牧区を移動して飼育しています。北海道はヒツジがいる風景にジンギスカンのイメージがありますが、流通している羊肉の90%以上が輸入です。北海道産羊肉は高級食材として全国各地へ販売されています。



5～6月頃に見られる親子のヒツジ



放牧豚 こな雪とんとん Free-range pigs



好きな場所で寝転がったり、土を掘ったり

えこりん村のブタは厳寒期を含め放牧飼育。ブタが持つ本能的な活動を妨げず、自らの行動を選べる環境を与えることで、健康的に育てることを目指しています。実は毛で覆われ、冬も活動的。恵庭市内の同名のとんかつ店や村内レストラン、道の駅で味わえます。

※ 人を介した病気からブタを守るため、公開しておりません



-20度でも元気いっぱい

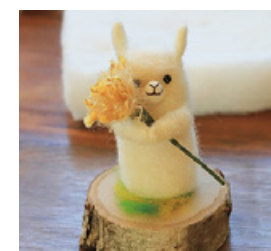


ウェルカムセンター Welcome centre

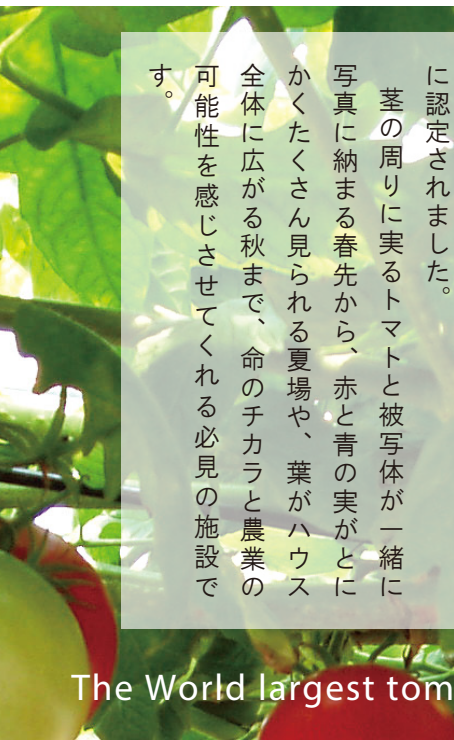
当日のイベント情報などが分かるインフォメーションコーナーや、開放的な雰囲気でのんびりできるカフェ、トイレ、授乳室があります。ショップでは、えこりん村限定の特産品や北海道の特選品などを取り扱っており、びっくりドンキーとのつながりを学べる展示エリア（※ 詳細13ページ）もあります。

羊毛クラフト、他クラフト体験 Craft work experience using wool and others

羊肉だけではなく羊毛も貴重な資源。大切に育てられたえこりん村のポールドーセット種はクラフト向きの毛質です。春先の毛刈りで選別・染色されたヒツジの毛を使用した羊毛クラフトでは、30分程度でアルパカや羊などをモチーフにした制作が体験できます。



※ 作れる作品は季節で変わります



The World largest tomato plant Tomato Forest

世界一に認定（'13年）

とまとの森



分析チーム Analysis team

とまとの森

茎の周りに実るトマトと被写体が一緒に写真に納まる春先から、赤と青の実がとにかくたくさん見られる夏場や、葉がハウス全体に広がる秋まで、命のチカラと農業の可能性を感じさせてくれる必見の施設です。

小さな一粒の種から、毎年1万5千個以上を実らせます。
例年11月後半に種を蒔き、4月中旬〜10月中頃（ホームページなどで）まで公開されます。水耕栽培で育てられたトマトは、深さ約10cmの水槽の中に縦横無尽に根を伸ばし、思う存分養分・水分・空気を吸収して育ちます。また、重なる葉が互いに光合成を遮るストレスをできるだけ排除し、植物の力を最大限引き出すようにしています。特別な品種ではなく、ごく普通にスーパーなどで売られているトマトです。'13年11月10日に世界一大きなトマトの木として世界記録に認定されました。

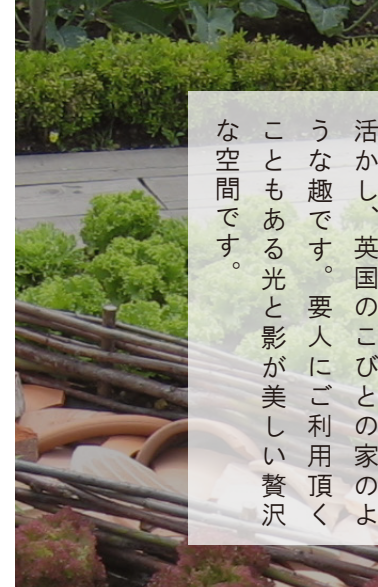
食で庭を彩る キッチンガーデン

to add colour on tables Kitchen garden

プロフェッショナルが創るキッチンガーデンには、家庭菜園へのヒントがたくさん。食べられる植物を美しく配置し、農業の生産性と目で楽しむ娯楽性を両立しています。それぞれの野菜や果物には旬の時期がありますが、生長過程、葉や実の色と形、高さなども計算して、手入れと収穫をしていきます。例えば、アスパラガスは、収穫時期が終わると、翌年に向け残りますが、ふわふわとした葉のテクスチャが素敵。チャイブやフェンネルなどのハーブ、縁のフリンジが美しいレタス、ハスカップやリンゴなどのフルーツ、秋には宙に浮くカラフルなカボチャと、よく見ると食べられる植物ばかり。

病害虫にいち早く気づきケアして、タミニングよく収穫し、片付けていく作業は大変ですが、菜園が空間を彩る技術を知るとわくわくさせられます。

場内には、主に、全国の店舗に供給される食材の質・安全性・食味など様々な視点から調査と分析をしている専門チームが存在します。



旬の野菜やえこりん村産豚肉などのこだわり食材を味わって頂けます。建物も木材の流線型や平取産の美しい岩をそのまま活かし、英国のこびとの家のような趣です。要人にご利用頂くこともある光と影が美しい贅沢な空間です。

パスタと本格薪窯ピザが自慢です。季節のデザートやシーズナルメニューもオススメです。牧草地を眺める大きな窓と高い天井が特徴的。明るい店内で、西洋風の調度品に囲まれ、お食事やティータイムをお楽しみ下さい。



森のレストラン天満 Ten-Man



レストラン らくだ軒

Relaxing atmosphere Restaurants

Garden Terrace Hana no Makiba

食の提供 レストラン

ガーデンテラス 花のまきば

「植物と暮らす」をテーマに

季節を彩る花苗や、宿根草、ハーブ苗、害虫などを手作業で取り除き管理したバラの苗木など、シーズン毎に豊富で新鮮な植物を販売しています。また、植物を元気に育てるための、オリジナルの土や肥料、寄植えにも最適なプランターなどもご用意。知識のある専門のスタッフが植物の管理方法もサポートします。

さらにガーデナーの暮らしを楽しくする、雑貨や、食器、インテリア小物、造花、アロマグッズ、帽子や洋服も販売中です。

えこりん村堆肥

Eco-rin compost
レストランなどから出る生ごみと畜産資材を一部活用して作る「えこりん村堆肥（※詳細11ページ）」をお客様にも活用して頂けるよう花のまきばで販売しています。

廃棄物
減らす

持続
可能な
農業

化石燃料
使用
減らす



環境に負荷をかけない エコな取り組み



生ごみリサイクル

Recycling system of kitchen refuse

※ 11、12ページ内で注釈のない実数値は2019年度のものです。

■ レストランの生ごみ、小樽ビールの絞り粕

【生ごみ発生量】総量 約156 t/年
らくだ軒、Ten-Man、ウェルカムセンター（3店舗）
びっくりドンキー（道内 直営15店舗、FC6店舗）
など 計26店舗

【ビール粕発生量】総量 約284 t/年
小樽ビール 銭函醸造所 238 t
小樽倉庫 No.1 46 t

レストランから出る主な廃棄物に生ごみがあります。水分を含むため重量もあり、処分場で焼却する際にも多くの燃料を要します。そこで、この生ごみをどう資源化するかという課題に着目し、1996年頃から取り組んできました。北海道内の設置可能な店舗では、生ごみ粉碎乾燥処理機で一次発酵してから、えこりん村の堆肥場と、バイオガスプラントへ運び、有効活用しています。

■ 生ごみ粉碎乾燥処理機

【処理量】回収総量 約64 t/年
約60%重量減（対発生量）
可能処理量30～50 kg/日/機
Ten-Man、
びっくりドンキーなど 計23機

生ごみを投入後、55度に温め、水分を蒸発させながら、約2ヶ月かけ資材化します。



使用資材量 約8 t/年

■ 堆肥化・熟成

使用資材量 約56 t/年



堆肥場でしっかりと熟成

一次発酵した生ごみ資材の内、年間約56 tは、堆肥製造に活用されます。えこりん村内の有機資材も加えて攪拌し、60～80度まで上昇させます。発酵促進材として活用しています。

堆肥 生産量 約500m³/年

■ 一般家庭、銀河庭園、「やさいの牧場」生産者

■ 花のまきば、銀河庭園

「えこりん村堆肥」は、銀河庭園の植栽にも使われ、家庭向けにガーデンテラス「花のまきば」で販売もしています。



■ バイオガスプラント

投入量 平均約2 t/日



液肥 生産量 約600～800 t/年

投入資材内訳
生ごみ資材・豆腐くず・グリセリン 約200 kg/日
ビール粕 約1000 kg/日
水 約800 kg/日

生ごみ処理機でつくられた資材やビール粕をタンクの中でメタン発酵させ、バイオガス（メタン約55%、CO₂約45%）を取り出しています。60m³のガスバッグ約3回分が1日に生産されます。

ガス発生量 150～180 m³/日
ガス生産と発電

発電量 約400 kWh/日

このバイオガスと右ページ記載のBDFを使う30 kWh 発電機で作った電気約134千 kWh/年は、場内事務所で約60%を自家消費し、余剰40%は売電しています。

ごみ処理費低減額、電力貢献費、液肥販売代でおよそ537万円償却前貢献差益高/年



地中熱ヒートポンプ Ground source heat-pump system

深度約100mまで掘削されたボーリング孔（地中熱井戸）内にU字型の樹脂管を挿入して熱媒（不凍液）を循環し、年間の温度変化が外気より少ない地中と熱交換することで、冷暖房に必要なエネルギーを低減する仕組みです。

えこりん村には、ウェルカムセンター（25本）、らくだ軒（13本）、Ten-Man（14本）に合計52本の地中熱井戸があり、年間約87,000 Lの暖房用の灯油と約15,000 kWhの冷房電力を減らすことで、合計で約103 tのCO₂排出量を削減しています。

地中熱ヒートポンプ式冷暖房設備の省エネ効果は、外気温度、地中温度、1日の使用時間、冷暖房の設定温度により異なりますが、恵庭地域の冷房期の平均気温18℃、暖房期の平均気温2℃、年間平均地中温度が約10℃のため、冷房効率は一般的なエアコンより約20%高く、暖房効率は灯油ボイラーの約4倍と考えられます。

※ 数値は2011年度の計測数値と標準的な稼働条件より算出しています。

化石燃料
使用
減らす

廃棄物
減らす

化石燃料
使用
減らす

こちらには北海道・えこりん村と関わる数値のみをまとめています。えこりん村を含めた株式会社アレフ全体で取り組む環境活動については、毎年発行する環境報告書で詳細をご確認頂けます。両誌は算出範囲が異なるため数値は合致するとは限りません。



油のリユース・リサイクル

Used vegetable oil recycling

■ レストランや家庭の廃食用油の収集

【回収量】総回収量 51,359 L/年

■ 関係店舗由来 40,519 L/年（平均 187 L/月/1店舗）

内訳）らくだ軒、Ten-Man 1,920 L/年（2店舗）
びっくりドンキー 38,599 L/年（道内 直営13店舗、FC3店舗）

■ 他家庭・事業所など由来 10,840 L/年（67拠点）

レストランから出る食品ごみで、生ごみの次に多いのが廃食用油です。揚げ物に使うフライヤー油（植物性油脂）は、限りある燃料資源として、近隣の家庭や事業所で使われた油と共に、幼稚園・保育園・小学校などを拠点にして集めて活用します。



■ バイオディーゼル燃料（BDF）精製

投入量 223 L/日



生産量 200 L/日

油は恵庭市にある北海道工場のBDFプラントで燃料化します。廃食用油にメタノールを添加すると、メチルエステル交換が起き、グリセリンとBDF原料に分かれます。その後、お湯による洗浄工程で原料と石けん水に分かれ、その石けん水を取り除き、乾燥させて、バイオディーセル燃料が完成します。なお、グリセリンはバイオガスプラントの原料に使用しています。

■ 廃油ボイラー

冬期のウェルカムセンターでは、館内暖房に廃油をそのまま燃焼させて温める、廃油ボイラーを使用しています。廃油を使用することで、灯油使用量を低減し、CO₂も削減しています。精製せずに直接利用することで、製造時のCO₂や排水、副産物を出しません。

消費量 約17,000 L/期



■ BDFを燃料に使用（ファームツアーのトラクター&イベント発電機）

使用量 約27,000 L/年

※ 内 約24,000 L/年はバイオガスプラントの稼働に使用されています

軽油の代わりに使用できるBDFを、気温の高い期間（低温時期はBDFの粘度が高まるため）ファームツアーのトラクターの燃料として使っています。その他、えこりん村内のイベントやYOSAKOIソーラン祭り、さっぽろイルミネーションなどの札幌市内のイベントの発電機用燃料として提供することもあり、各家庭など地域で集めた油が、地域のイベントの電力として生まれ変わります。



その他 Others

廃水
減らす

水質
適正に

エネルギー
使用
減らす

再生可能エネルギー電力

「再エネ」による電力調達を行っています。えこりん村内で使用する電力は、水力、太陽光、地熱などの環境価値を有しており、CO₂排出量が実質ゼロの電力です。

FSC®ミックスラベル紙袋

責任ある管理をされた森林や、林産業の責任ある調達に与えられるFSC(Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会) 認証ミックスラベルの手提げ紙袋を一部使用しています。

節水トイレ

らくだ軒の男性用トイレには無水型の小便器が設置されています。特殊な油が、尿を覆い蓋をする構造になっており、小水を流すだけに使われる水道水を削減します。

エコ検針

1ヶ月に1回検針を行っています。使用している水光熱量を把握することは、適正な使用量や漏水の発見、設備の配置や種類を考える上で重要です。2006年から継続しています。

体験 農業 生物多様性 学ぶ



楽しくまなぶ機会と場所

CEPA activities, exhibitions and Biodiversity conservation



グリーンウェイブ in えこりん村

Registered events as the Green Wave of UNDB-J



「国際 生物多様性の日（５月２２日）」前後に、主に森林や樹木等とのふれあいを通じ、生物多様性の理解や普及啓発につながる活動を行うことをグリーンウェイブと呼んでいます。えこりん村では、春に実施する３つの活動※を登録しており、人の生命を支える基盤となる「生物多様性」や「自然」について考える機会を提供しています。

※ もう一つの活動、『田植えまつり』を行う「ふゆみずたんぼ」の詳細は、５ページをご参照下さい。

外来種セイヨウオオマルハナバチ駆除活動



ミニトマトなどのハウス栽培を助けるために輸入された外来種のハチが、もとの生態系や自然に影響を与える恐れがあります。在来のハチの生息域を保全すること、より多くの方に外来種問題を知って頂くことを目的に、2005 年から毎年、新女王バチが巣作りを始める春、市民や協力組織の皆様と駆除活動を行っています。

協働

北海道、HoBiCC

2008 年から北海道と連携を始め、2014 年より「北海道セイヨウオオマルハナバチ対策推進協議会」へも参加。加えて北海道生物多様性保全活動連携支援センター (HoBiCC) などと協働で制作した活動の映像も公開中です。



えこりん村の森づくり



「えこりん村の子どもたち」などの活動場所ともなる銀河庭園の奥の森を管理しています。主に笹刈りや倒木の片付け、間伐材の切り出しなどを通し、二次的自然の多様性、自然資源の重要性を伝えています。北海道のシラカバ材活用から始まった木のお皿とそのリユースについても、例年、お話をさせて頂いています。

協働

オイスカ北海道支部

主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開する公益財団法人オイスカの北海道支部と協働しています。えこりん村での活動の他、「北海道 山・林・SUN 体験」やアジア圏で行う植林・森林管理活動に参加するなどしています。



展示・教育旅行：えこりん村のひみつ展

Exhibition, behind the Eco-rin



ウェルカムセンター内には、こちらで紹介してきた（株）アレフや「びっくりドンキー」及びえこりん村で取り組んでいる具体的な活動を、パネルや立体で伝える展示があります。こちらで紹介してきた様々な取り組みを知ることができるコーナーです。

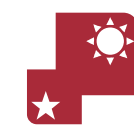
幼稚園・保育園～大学までの教育旅行や、様々な団体様などにご案内するカリキュラムもご用意しています。

ぜひ、農業・環境・SDGsの活動などを学びにお立ち寄り下さい。

目指せ！ 世界一のエコロジーテーマガーデン



持続可能性とは何か、自分たちは何をして、伝えていきたいのか



「はじまり」から、 「つづけること」へ

はじまり

（株）アレフでは、1996 年頃から、びっくりドンキーの食材の安全性の追求や、生ごみの資源化などの挑戦を始めました。その中で、えこりん村の前身である「恵庭エコプロジェクト」が2000 年に始動。当時、「環境」はビジネスにならない「余計なこと」や「負担」と見られ、えこりん村開設に尽力した創業者もそういう言葉を投げられたと聞きます。

『持続可能性』が共通の理念に

さて、最近の世界の潮流はどうでしょうか。食の生産に関わる問題、地球温暖化や環境汚染、貧困、医療や教育の格差、生物多様性の損失…個別に上げられ、対策を練られてきた問題が、一つしかない地球上の人類全体の課題として次第に結びつけられ、国連でも「持続可能な開発目標（SDGs）」を設定。そして、世界のトップ企業が次々に二酸化炭素排出量の数値目標や持続可能な仕入れ基準を掲げるようになりました。つまり、経済や雇用面で社会貢献をしながら、SDGsも踏襲していなければ、企業の存続が難しい時代になってきたのです。

利益の出し方も 使い方も大切 ———— 「体験」が「経験」、やがて「貢献」へ

自分は、海外の森林伐採による土砂崩れのニュースに衝撃を受け、持続可能な森林資源について見つめ直し、「びっくりドンキー」の木のお皿の取組みに反映しました。しかし、次に、その木材の産地である東南アジア諸国で、道端に落ちている数々のゴミや、切り開いた山に延々と続くゴムやヤシのプランテーションが、野生動物や自然に影響を与え、人間社会にも深い影を落としていることを目のあたりにします。その際、解決には、地域の人が自分で自然環境を育てる必要があり、経済性と環境保全の両立が必須だと確信したのです。そしてタイやマレーシアなどとの取引で得た利益を活かし、現地の若者や子供に対する農業を通じた環境活動の支援につなげました。

さらに過去を振り返ると、小学生の頃、転校をきっかけに学校で閉塞感を感じ、家の前の茂みに自分だけの秘密基地を作りました。そこでの冒険や、友達との衝突などは、子供時代にしかできない自分だけの宝物です。その経験から、“えこりん村の子供たち”では、思う存分「村」を使い、その子にしかできないその子のための「とおきおきの経験」を得る機会をお手伝いさせて頂いています。この活動は、動物や植物に関心を促すことで【人にやさしく、地球にやさしく】いられる「他者を認める心」を育むことを目的としています。地域や外部組織と連携した“犬ぞり大会”や“環境展”といったイベントもこのようなビジョンのもと開催しています。

実は、まだこの土地に何も無い頃、今の銀河庭園の奥とその沢に入り、エリア全体を眺めたことがあります。その後、地元の方が守ってきた坊主山の文化と、乗り越えてきた厳しい時代のことも教えていただきました。先に取組みを始めていた方や、今活動を共にする仲間も、一筋縄ではいかない農業や環境の課題にぶつかりながら改善し、自立した場所に育て貢献しようと必死です。簡単なことは何一つありません。

楽しそうにすること

地球環境のことは、遠く難しい題材と敬遠されがちです。でも、それを「楽しく」「わかりやすく」伝えていく使命が、えこりん村にはあると考えています。お客様は「わあ、キレイ」とか「面白そう」とワクワクしたり、リラックスしたりで良いのです。その奥で、ガチンコで真剣勝負をしているえこりん村から大切なものを感じて頂けば、活動を応援してくれる人や、一緒に活動する人が増え、その輪が「世界一のえこりん村」を形づくることになると思っています。ここでは、たくさんの言葉を並べましたが、言葉ではなく、私たちが届け続ける実際の「体験」や「製品」を存分に「楽しんで」いただければ幸いです。



えこりん村 村長 庄司開作